



團員

松本
花

十六編上

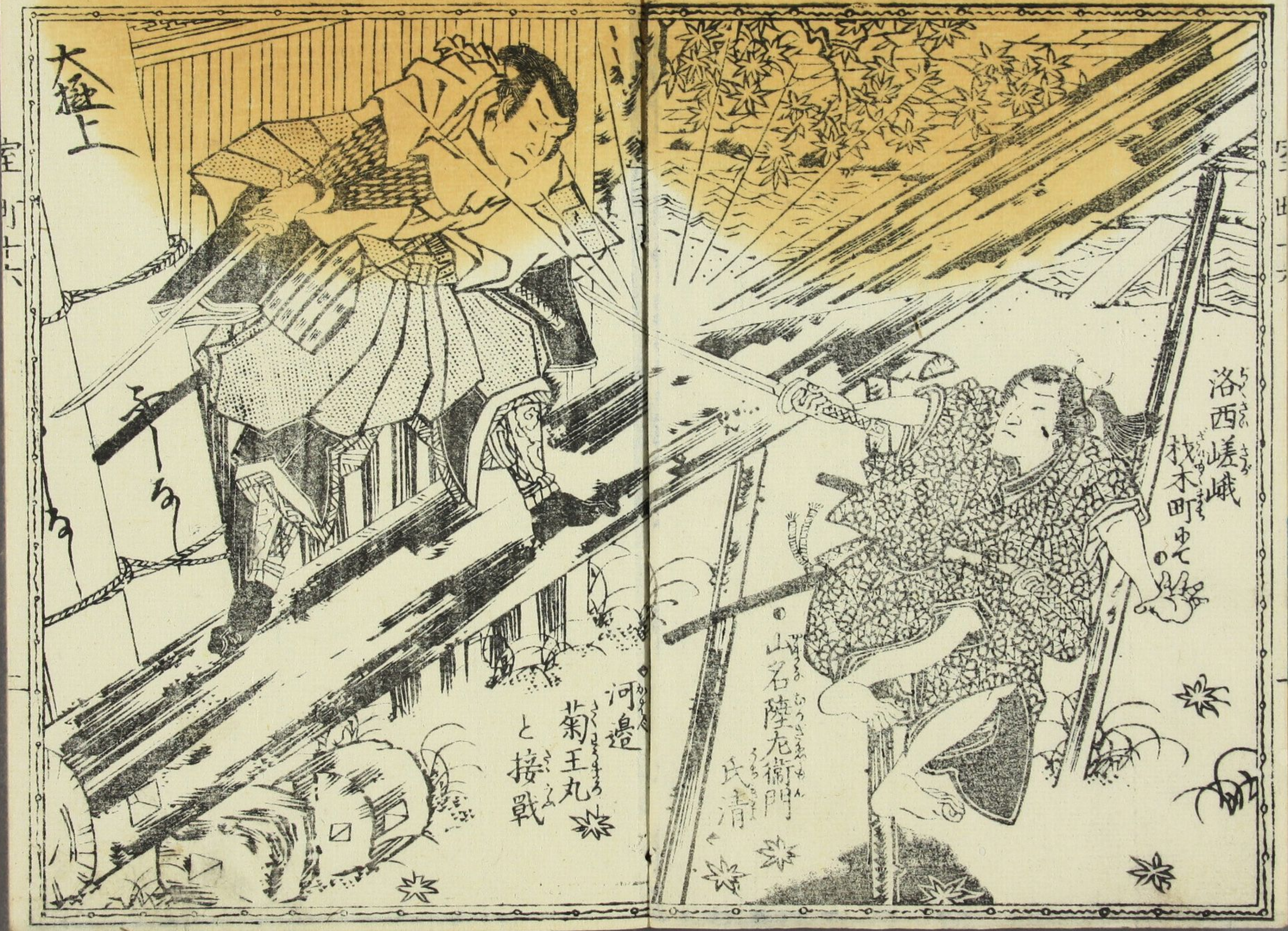


室町源氏胡蝶
卷初 種之次
他物陳情画圖

天明文庫

源氏とて頼朝義經白旗を翻きて云やうの牙思しを女のまゝくを媚
かき物語繪の称とあれう幾度も言事ある傍此紫の手柄中
師の跡を履む其かひ小一株分一花の御所鳥敢る作山師の天
乙坊をも雄蝶を雌蝶を賣らう次手是も女で著述とのを誰々も
あつせし中らむ今や余も心づらきありの自笑か絶筆の樂日記を
讀まれば山蔭長者の落胤の姫を家来が不見る話をも贋物を造る
悪工も有て浮世本の好か人のことをも票竊稿あるゆて藍ト
出て瓶眼水より出てあやめられた書振ありと晒ひし中らむこと
真小沾衣あれどもあつらひしとまると條もあき騷々とした物語あり

巳年春正月
柳の種まき



大極上

室町十六

河邊
菊丸
と接戦

山名陸右衛門
氏清

洛西嵯峨
枝木町中

十六の女中
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり



あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり

あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり



あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり

あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり
あはれつゝあや
ろろをち
うらうけつた
その女の女中
をねむらせれり

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or translation, covering the left page. The text is organized into several vertical columns. On the right side of this page, there is a detailed illustration of a man in traditional Japanese clothing (a dark kimono with a floral pattern and a hakama) sitting and holding a folding fan. Below him is a large, decorative bowl or tray containing what appears to be a bouquet of flowers or a similar arrangement.



Small vertical text on the left margin.

Small vertical text on the left margin.

Small vertical text on the right margin.

Small vertical text on the right margin.



Handwritten text in Japanese characters, likely a chapter title or introductory text, located on the left side of the page.

Handwritten text in Japanese characters, likely a chapter title or introductory text, located on the right side of the page.



Vertical column of handwritten Japanese text located above the man's head.

Large block of handwritten Japanese text located below the man and woman.



Large block of handwritten Japanese text located below the woman lying on the mat.





さういふ
そのまは
かみうひ
まは
まは
まは

○さういふ
さんまを
かんげん
まは
まは
まは

まは
まは
まは
まは
まは
まは

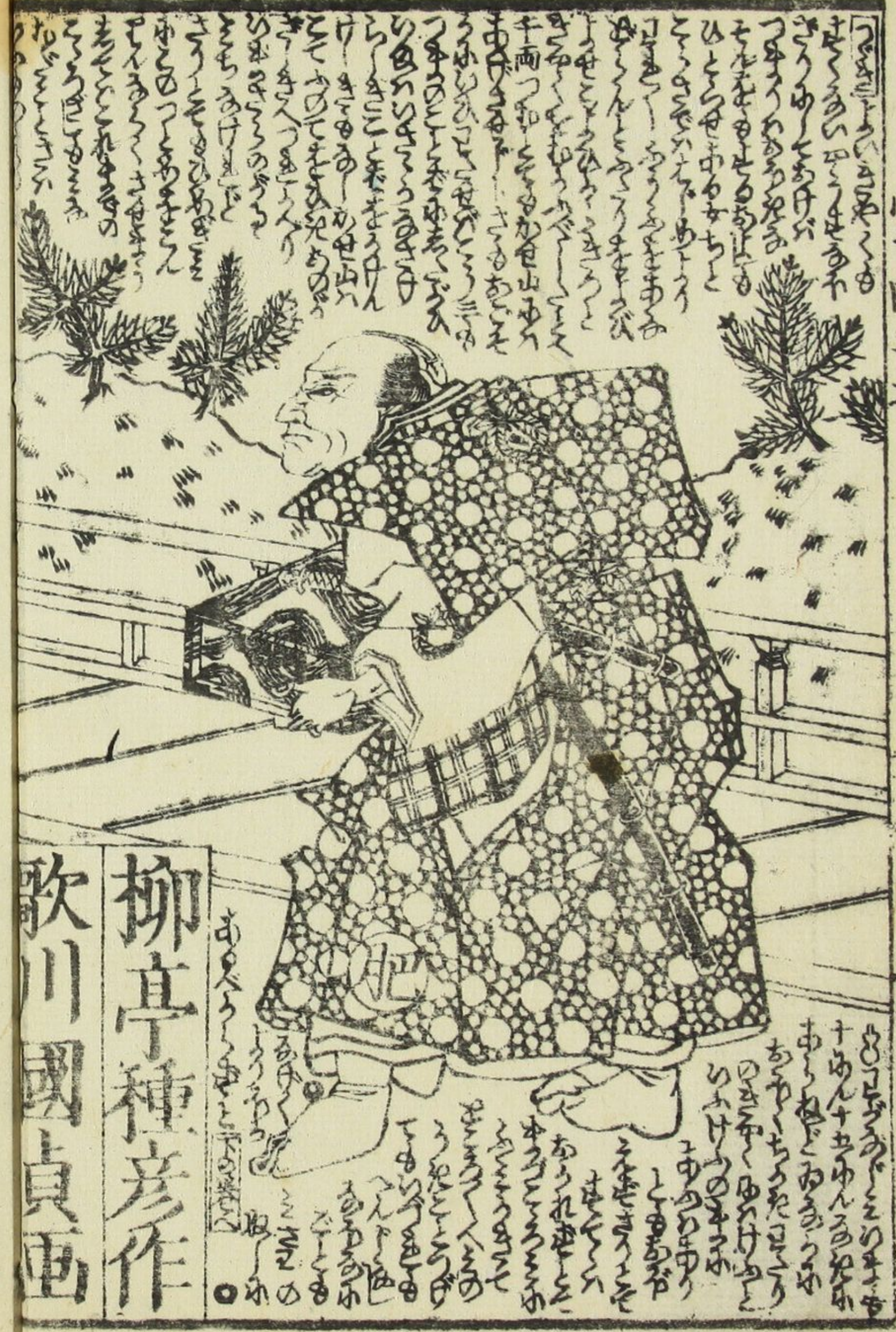
まは
まは
まは
まは
まは
まは

まは
まは
まは
まは
まは
まは

まは
まは
まは
まは
まは
まは

まは
まは
まは
まは
まは
まは

まは
まは
まは
まは
まは
まは



柳亭種彦作
歌川國貞画

柳蔭月朝妻

十編
大尾

山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黃鸝八幡不知

十編
大尾

山々亭有人作
錦朝樓芳席画

阿玉ヶ池梯月形

五編
大尾

爲永春水作
梅堂國貞画

八犬傳犬の最紙

六十
柳亭作
大尾
國政画

小學行儀法 全一冊

寶母散

さんせんきんご
ふとんしよふ
一四の明書

中編
梅朝樓國貞画
千葉堂芳席画



源氏

十六扇下





Handwritten Japanese text in cursive style, arranged in vertical columns. The text includes characters such as 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十. There are also blue ink washes and a red seal at the bottom right.

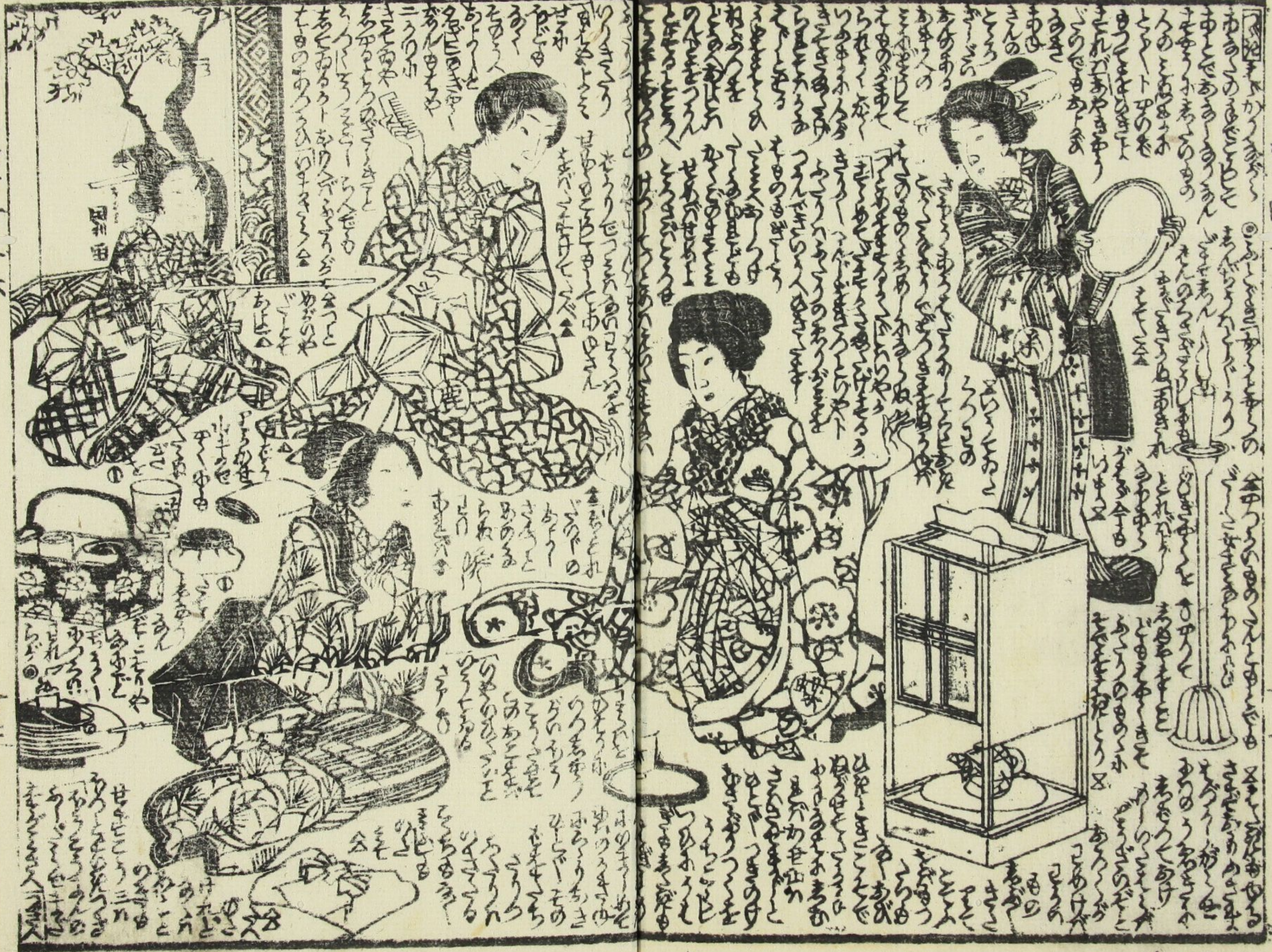




田一



田一



Page 11

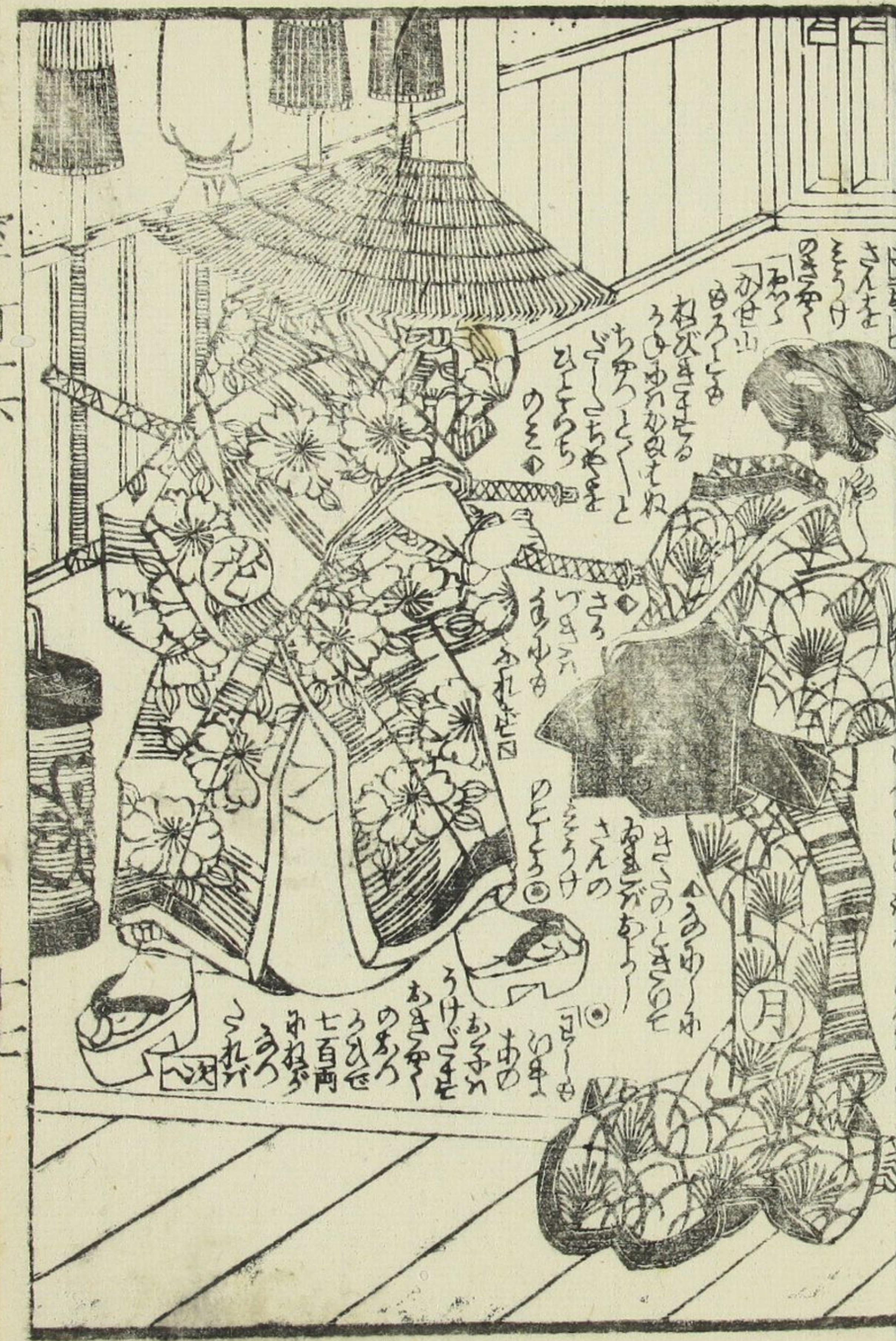
Page 12



此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし
 此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし
 此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし



此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし
 此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし
 此の如きものありては
 何れもさういふことが
 出来ぬことなるべし

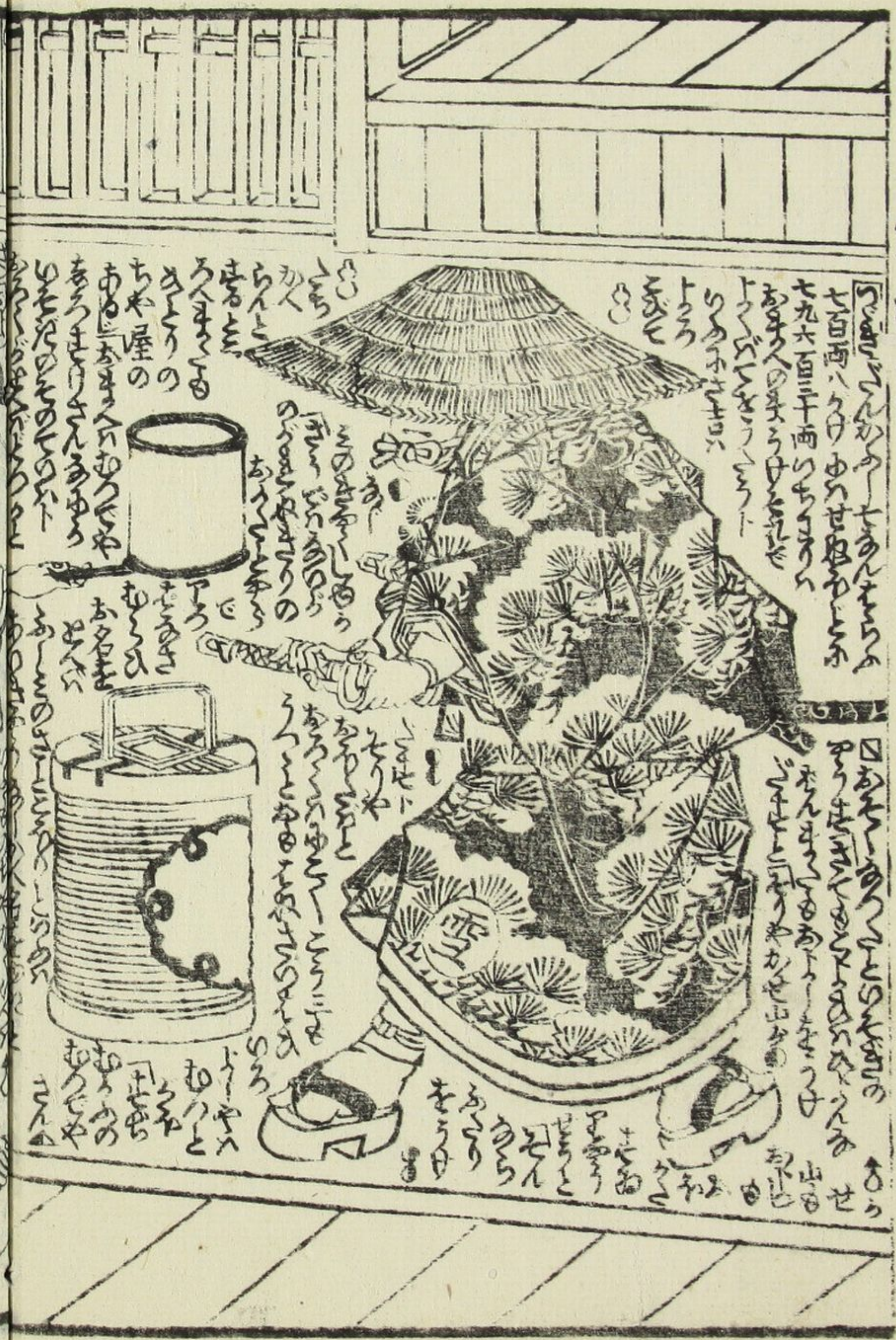


かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち



かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

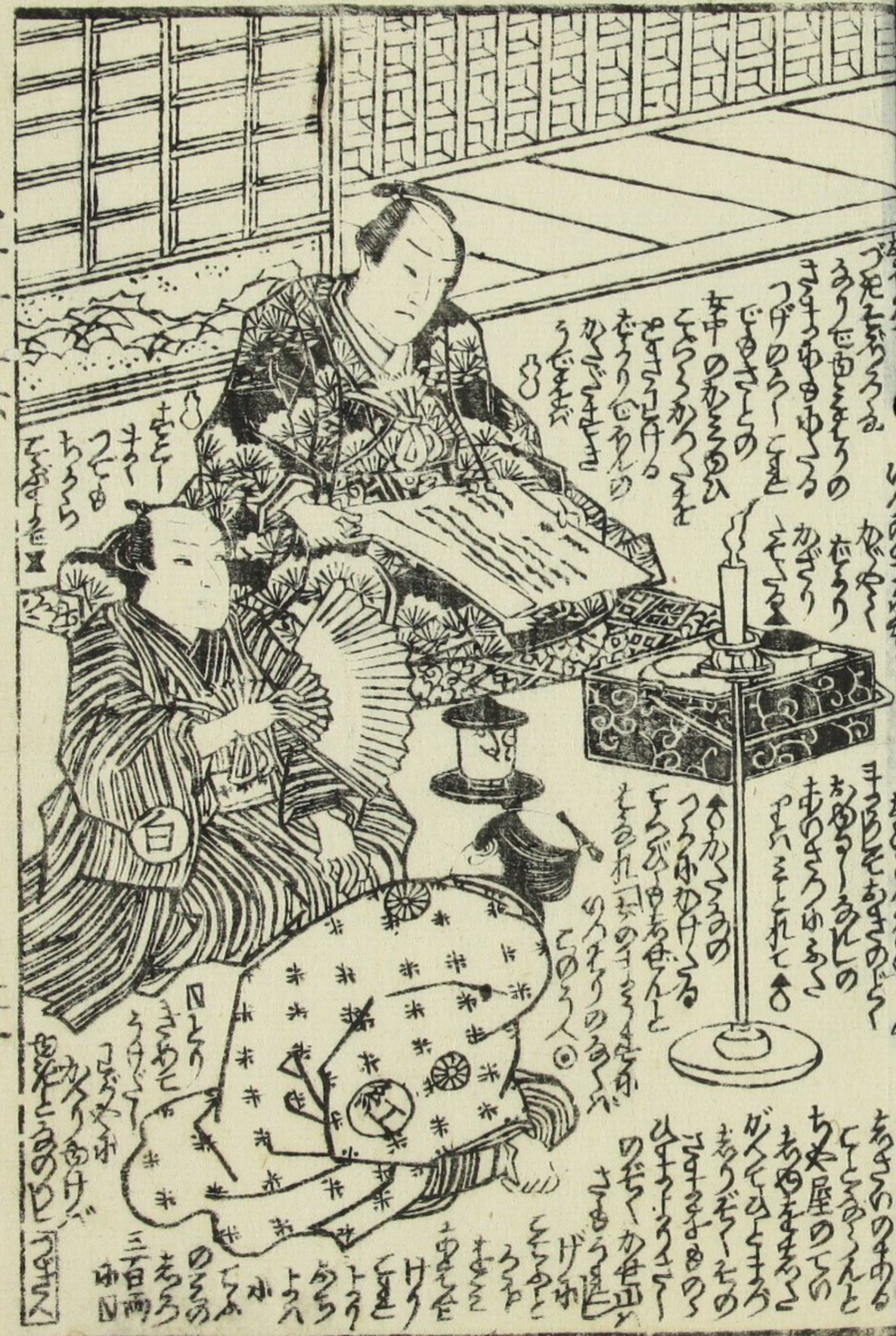
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち
かき
あつち

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a play script, located on the right page of the manuscript.



Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a play script, located on the left page of the manuscript.





田一

田一

地本綿繪團扇問屋

厚化粧萬年場田

十編 春水作
大尾 國貞画

室町源氏胡蝶卷

二十編 種彦作
大尾 國貞画

鼠祠通夜譚

十編 種彦作
大尾 國貞画

童謡妙々車

三十編 種彦作
大尾 國貞画

薄倖幻日記

三十編 春水作
大尾 國貞画

新島九尾傳

十編 春水作
大尾 國貞画

筆海四國問書

十五編 種彦作
大尾 國貞画

明鶴墨画煙襦袢

十編 種彦作
大尾 國貞画

花封蒼玉章

十編 種彦作
大尾 國貞画

七女山鳥飾譚

十五編 種彦作
大尾 國貞画

京福區南浦馬町壹丁目二番地
出板
林 吉蔵

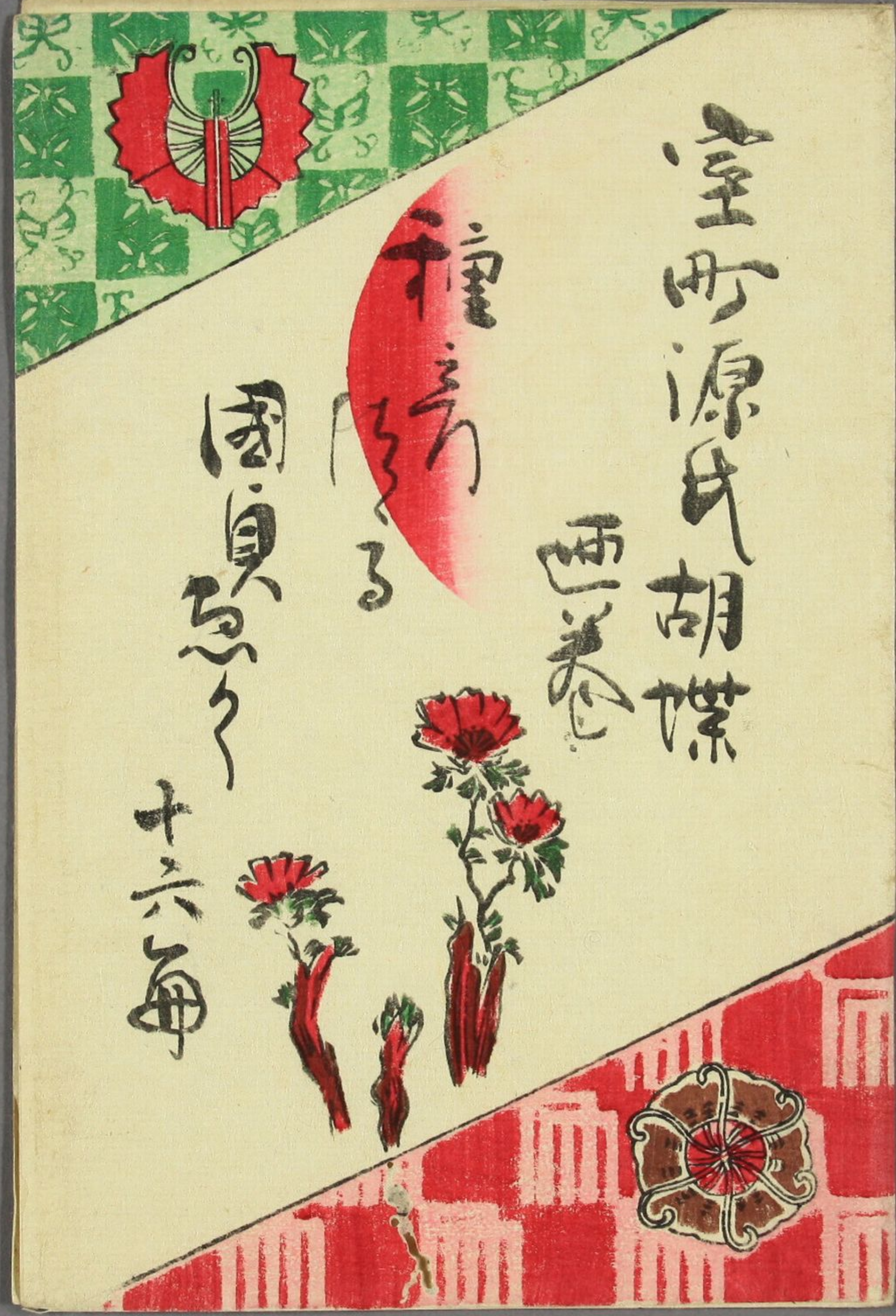


柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

○本千七篇十八ヶ所とひまきつて
あゆみせんつらまろつらつらつらつら
まじりゆめのひまきつてあゆみせんつら
かんやとあゆみせんつら
さくらんの人

紅英堂 欽白
版元
以上





室所源氏胡蝶

種

國貞

國貞

十六





小森喜代女

